



発行所  
長野県下伊那郡高森町  
下市田 高森町公民館  
発行人  
大 洞 利 雄  
☎35-9416  
印刷所  
龍共印刷株式会社



# 初夏の陽気に誘われて

～代かき、かも??～

## インタビュー



この春から高森町の職員としてお世話になっていま

京都で過ごした大学4年間はとても楽しく充実した時間でしたが、地元に戻り、やはり私にとって一番落ち着く場所は高森町であると感じています。

役員職員としてまだまだ半人前にも満たないですが、初心を忘れず、高森町の発展に貢献できるよう日々邁進してまいります。

福島佳奈(下市田)

## 平成29年度 公民館各部の新任ご挨拶

### 体育部



部長 龍口 恵介

29年度体育部長を務めることとなりました龍口恵介と申します。

私は、スポーツに関心が

### 教養部



部長 松下 徹

平成29年度の教養部長となりました。2年目の役員の方が4人ということでした。候補者ですので教養部の皆さんに協力をお願いいただき、楽しく活動を行えるよう頑張りたいです。

さて、教養部の大きな活動として11月の「まご収穫祭」にあわせて行われる文化祭と、年始の成人式となります。

平成28年度については、文化祭で貝ホルダーとプラステック製竹とんぼを作成、あわせてお手玉の体験を行いました。小学生を中心に楽しめていただけ良かったです。

また、成人式については、準備・設営等手伝わせていただきました。

平成29年度につきましては

### 高森町公民館報の縮刷版ができました!

高森町公民館の歴史ともいえる「公民館報」401号〜500号、そして501号〜600号の公民館報の縮刷版が完成しました!

401号〜500号までの縮刷版の表紙は記念すべき500号を、そして501号〜600号は「どう」むすぶ「まなぶ」という公民館の基本を表現する表紙になりました。

出来上がった縮刷版をパラパラめくってみましたが、「この時にこういう行事があったなあ」「そうか!公民館でやっている行事はあの頃にもやっていたんだなあ」など、高森町の公民館の歴史や活動の年輪を感じるだけでなく、「お!この人が取材されている!」「おお、あいつ、だいたい変わったなあ...」など、公民館の歴史だけではなく、人の歴史も垣間見ることができそうです。

今回の縮刷版については、今のところ販売は考えておりませんが、データ版(CD-ROM)も作成しており、高森町図書館で縮刷版もデータ版も借りることができそうです。まずは図書館にお越し頂き、手に取って町公民館の歴史を振り返って頂ければ幸いです。

**説 論**

昨年度の公民館報600号の企画会議で公民館報のありべき姿を考えた機会を得た。公民館報は公民館活動を通じて地域住民に伝える手段でもあるが、自分たちの暮らす地域や人との心地よい繋がりを求め、さらによい環境と暮らしを作るための課題を提起していく役割を担わなければならない。インターネットの検索項目のような横並びの扱い

方ではなく、「今、私の暮らした地域で、起こっている出来事、変化している状況、そこに暮らす人々の思い」を的確に、タイムリーに拾いあげ示していく。怒濤の勢いで変化する社会の中で、いったい何が本

## 人と地域を繋げる公民館

事こそ、これからの公民館当なのかならない、混沌とした中で日々生活している。一步先の将来への希望も、確かなものとして持てられない不安がつきまとう。自分の足元の安心、安全は案

外脆い思い込みではない。情勢はグローバルに捉えつつも、心の安定は身近でローカルなところにこそ確かな手応えがある。

目的を同じくした者が集い語らうなかで、解決策や企画が新たに生まれ、さらに仲間を増やして思いを共有していく。そうした自然発生的なうねりが町を変え、生活を変えていく。与えられたものではない、公民館を下から支える活動がでないだろうか。

### 編集部



部長 松島 文秀

パソコン・スマホなどの情報機器から各種ニュースや地域情報を見ることが多くなり、新聞離れが進行している現状下で、編集部の業務は、隔月で発行する館報「たかもり」の作成です。

## 三面鏡

大きく咲き誇るリンゴの花を見たのはいつの日以来でしょうか。ここ数年は遅霜に遭っていましたが、立派なリンゴの花を見るのは数年前ぶりです。大型連休中は今年の花開きを期待してリンゴの摘花作業に励みました。

さて、今年の春は遅足でやってきました。各地の神社の春祭りが行われる頃、うやく桜の花が咲き始め、桃・梨・リンゴなど果樹の花が徐々に咲きました。春祭りが行われると春が来たことを感じます。日差しに暖かさを感じ、日が長くなり、日中の活動時間が伸びてくる頃です。冬の剪定作業がひと段落し、リンゴの芽が少し膨らんできていることに気づきます。農作業は春を迎えるに忙しくなり、春祭りは農繁期へ向けて心身も切り替えを行う大切な節目と感じています。

今年の春祭りは、前日からの雨が上がり、優しい春の日差しと心地良い風を感じながら、保存会の皆さんと共にお囃子に参加しました。春祭りは、氏子の皆さん、保存会や地域の皆さん、大勢が集まり、勇壮な屋台獅子の舞、子供獅子の舞などが奉納されました。元氣な子供達の声が響き、こちらに元氣が伝わります。今年の無病息災と農作物の恵みを願い、そして農繁期に向けて心身を調えることが出来た春祭りでした。



# 「心」と「まなざし」と「手」を子ども達に

## —地域の力で子どもを育てる—

コミュニティスクール コーディネーター 樋本 修

### 地域とともにある学校

小学校の市田柿づくりや習字・裁縫の授業など、最近学校ボランティアの募集をよくやっているなあと思っ

ては、町民の方は多いのではないのでしょうか？  
これまでも学校は家庭・地域によって支えられてきました。学校では、これをさらに推し進め「地域とともにある学校」を作り、みんなの力で子どもを伸ばし成長させていくこうとして

います。  
この「地域とともにある学校」を、長野県では信州型コミュニティスクール(以下CSと略)とよんでいます。高森町では、南小、柿の里CS、北小、山吹、ほたるの里CS、中学校、小原ヶ丘CSが立ち上がり、活動を始めています。  
では信州型CSとはどのようなものでしょうか。

信州型コミュニティスクールとは、学校と地域の皆さんが継続的に連携していくための仕組みをもった学校のことです。その特長は以下のとおりです。

- ①これまで各地域で行われてきた学校を支援する取り組みを土台にします。
- ②学校と地域住民や学校支援ボランティアが集まって話し合いの場を持つ、「運営委員会」を設置します。
- ③運営委員会を通じて「こんな子どもに育てたい」という願いや課題を地域全体で共有します。
- ④願いや課題を共有した地域の皆さんに学校支援ボランティアなどに参加いただき、一緒に育てていくという関係性を築いていきます。

長野県教育委員会文化財生涯学習課  
「信州型」コミュニティスクール「地域のみなさんが集う学校へ」

### 高森では

高森では、本の読み聞かせ、豆腐づくり、市田柿学習、町シニア大学生との交流、歴史民俗資料館での学習、福祉施設との交流、地域の農家・農産加工施設との交流などが行われてきました。これらを土台として、昨年は小学校の習字や裁縫などの授業に地域ボランティ

アのみなさんのご支援をいただくことができました。

### 学校の敷居は高くない

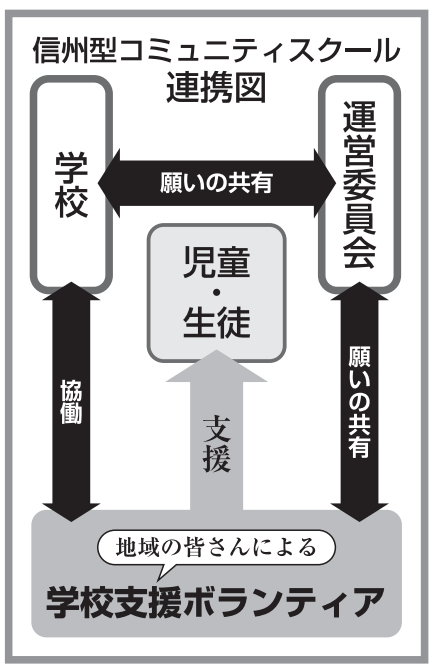
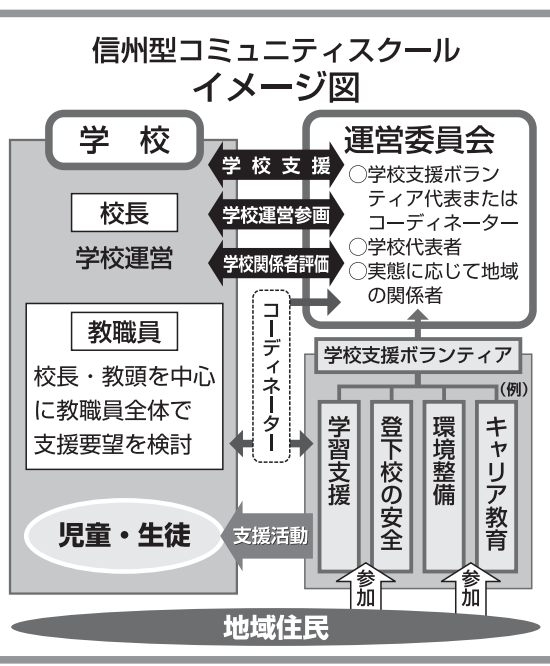
よく学校の敷居は高いといわれます。また「自分が学校に行くと、本当に子どもたちのためになるんだろ」とか「心配される方がいます。大丈夫です。学校支援ボランティアに参加された皆さんの感想を読んだら、ただそれだけお分かりになると思います。

### 大人にとっても良い活動だ!

今年1月末の「柿の里CS運営協議会」で、「これは大人にとっても良い活動ですね」という感想がありました。ボランティアの活

動で学校の授業が豊かになります。子どもたちを見守る大人のまなざしや支援の手・心を子どもは感じ取ります。そして、大人も自分の培ってきた力や趣味・特技などが役に立っていることを実感できます。このことを指して「大人にとっても良い活動」と表現されたのでしよう。

ボランティヤは、自分のできることをできるときに、無理なく楽しく、学校・子どもたちを真ん中にして、地域のつながりを広げます。たくさんの方がボランティヤの輪に加わっていただくことで元気な学校・元気な町を作っていくことができたらいいですね。



### くろくぐら



私たちは、高森町の小学校、中学校の子どもたちに、良質な絵本や紙芝居、また昔話の語りをお届けする活動をしているボランティヤグループです。

月に1回勉強会をして、良い絵本の選び方、読み方等の研修を重ね、朝8時20分からの15分読書の時間に学校にのけていきます。「今日はどんな子どもたちに出会えるかな」と毎回緊張しながら教室に入りますが、子どもたちが絵本の世界にひきこまれていくのを感じた時、読んでいくのを感じた時、読んでいく私も、大きな喜びを感じています。子どもたちからたくさんのお話を聞かせてもらっています。

### まま☆プラザ



時間が過ぎるのが早く、思うようには出来なかったようです。また、ミシンも一台ずつ機種が違い、子どもたちも一人ひとりの進み具合が違うため、とまどいを感じながらも、子どもたちに教えることは楽しい一時だったとのこと。  
子どもたちも素直に聞いてくれて、またお互いに教えあって、和気あいあいとした授業だったようです。  
会員の皆さんも、今回のコミュニティスクールの取組に関わって、学校の先生方が全教科を子どもたちに教えることの大変さが分かったとのことでした。また、社会福祉協議会を通じて、教えた子どもたちから年賀状を頂いて、とても嬉しかったとお話しもお聞きすることができました。

取材を通じて、会員の皆さんは、子どもたちの心に残る素晴らしい出会いと教え方をされているのだと感じました。また、わたしも、子どもたちみんなが出来上がったエプロンを身につけた様子を見たかったと思いました。

高森の小学校の子どもたちの素直さ、優しさの心を、これからも大切に育ててほしいと思います。



町に戻ってきてからも、ご自宅にて書道教室を開いている。

宮島さんからは「子どもたちには、書くことの大切さ、楽しさを感じてもらいたい。そのために、少しでもお役に立つことができたありがたい」とのお話を頂いたので、担任の先生ではない人が書道を教えてくれるという緊張感と期待感、そして「やる気」を子どもたちから感じるとのこと。そして、素直な子どもたちからの反応が非常に嬉しく思うとおっしゃっていました。

宮島さんは、日本の文化である「書道」の行末を案じている。効率化を求めた結果、パソコン等の急激な普及によって、日常生活において文字を書く必要性がかなり少なくなっており、学校での授業も削られていく傾向にある。

ICT教育の導入は、これからの子どもたちにとって不可欠だが、「姿勢を正して静かに筆を握ることで集中力を高める」書の作法や姿勢がもたらす効果は大きい。「手書きの文字は温かい」など、書道とは「効率化では測れない目には見えない心の発達を支える教育」であることに信じ、毎回、子どもたちと真剣に接している。



### 習字教室

高森町のコミュニティスクールの書道の授業のボランティヤ講師を務める宮島節子さん(竜口)。宮島さんは、横浜で書道教室を開いていた経験があり、そして5年前に地元である高森

### 布喜(ふき)の会

5年生の家庭科授業で会員数人ずつ出席して、運針から始め、布を裁断し、ミシンでのエプロン製作をお手伝いしているとのこと。  
初めて子どもたちに教えることを案じていたのですが、

# ワンランク上の 親子バーベQ講座



5月14日(日)、あぐり交流センター(旧蘭植物園)にて、親子を対象にしたバーベQ講座が開催された。約60人の参加者が、日曜日のひとときを楽しみました。

講師には、日本で唯一のBBQ芸人・「ただだバーベキュー」さんをお迎えし、仲間の芸人・「こてつ」のお二人が、面白おかしくトークを盛り上げてくれました。ただだバーベキューさんはBBQ歴10年以上で、BBQのことだけを綴ったブログがきっかけとなり、レシピ本が出版されるほどの実力派です。カナダのアルバータ州政府から「カナダ大使」に任命されるほどの腕前の持ち主です。また、「カルガリー市の名誉市民」「東洋アルミBBQアンバサダー」にも選ばれているそうです。

普段のBBQに「工夫」をテーマに「不便を楽しむ、それもバーベキュー」ということで、今回は、①彩野菜のバーベQ②シエイキングサラダ③アルミホイルを使った本格スペアリブ④ラム肉のハーブグリル⑤豚肩ロースステーキ⑥トマト焼きそば⑦ペリーベリーマシユマロの7メニューを教えていただきました。

参加者は、「ラム肉は苦手で食べるのを避けていたけど、ハーブをまぶして焼くだけでこんなに美味しくなるとは意外だった」「今までは、ただ焼いてタレをつけて食べるだけだったけど、いろんな楽しみ方があるんだと感心しました」「ピルチーズを入れて振るだけで、子どもでも簡単に美味しいサラダが作れて驚きました」と大変好評でした。

あるお父さんは、「このガラスのハウスなら全天候型のいいバーベキュー場として利用できそう。丁度飯田で焼き肉フェスやってるし、焼き肉の町高森で観光化したらどうだろう。」と熱く語ってくれました。

# 高森のホタル



高森町ではいくつかのホタルの群生を見ることができスポットがある。山吹の天伯峡のホタルは、現在、地域の皆さんで構成される天伯峡ほたる管理委員の皆さんが中心となり、北小学校の子どもたちと一緒に、ホタルの保全活動を続けている。

3月に放流した幼虫たちは、4月末から5月上旬の雨の晩に(ここが面白い)陸に上がり、土の中にもぐった後、サナギ(羽化)という過程をとり、そのホタルたちが6月上旬から下旬にかけて、天伯峡の夜を美しく彩るのである。

幼虫が上陸したことの確

認を管理委員の皆さんで行っているのだが、幼虫の時期であっても「光る」ため(これもビックリ!)、その存在を確認できること。6月17日には、山吹区の皆さんによる「天伯峡ほたる祭り」が開催される。毎年、祭りへの来場者やホタルの見学者は増加傾向であり、これは嬉しい限りのこと。一方で、環境の変化のせいなのか、餌であるカワナやホタルの数は減少傾向にあるらしい。これを把握できているのは、平成15年あたりから管理委員の皆さんで、その発生数を計測しているからだ。このようなデータを収集している

# 松岡城跡を歩く会

## 【いざ!松岡城に攻め入る】

5月6日(土) 大型連休も終盤、老若男女50人が参加し、松岡城跡を歩く会が開催された。静岡大学名誉教授の小和田哲男氏の解説により、一行は城跡南側、今なおハッキリと残る数条の掘跡の先端にあたる古道を進んだ。

道中では、小和田氏と地元関係者の詳しい説明に、参加者も熱心に耳を傾けていた。地元で居ながらにして、普段ではなかなか歩くこともない、目にはして

いるがじっくりと眺めることもない道のりと景色である。段丘上の松岡城、その城下にあたる下市田には当時を知るべく宝が数多く点在している。城下の地を巡り歩いた一行は、清水庵(観音堂)にて休憩をとった。用意されていたお茶とフルーツ、昔でいう峠の茶屋といった雰囲気の中で喉を潤した。会も終盤、ここは松岡城本丸の直下。いよいよ一行は城に攻め入るのであった。城入口となる山麓虎口より

落差100mを一気に攻めあがった。本丸入口に辿り着いた一行の表情は達成感に包まれているよう。うかがえた。

参加者は「城の全体像をつかむことができた」、「身近な所でも初めてのことばかりであった」と振り返った。新緑とさわやかな風に包まれ、地



山麓虎口より城へ攻め入る一行

# 以前からの疑問が解けました!

## 【静岡大学名誉教授 小和田哲男氏特講演会】

5月5日、高森町教育委員会主催「井伊直虎と直親(亀之丞)〜亀之丞時代の松源寺・松岡城」と題して、今年6月は、ぜひ多くの皆さんに高森町のホタルを見て欲しい。また、「うちの近所にも、見える場所があるんだよ」という方が、(そつと)公民館まで教えてほしい。

高森町には素晴らしい「宝」がたくさんある。ホタルが見える自然環境もその一つだ。時代が変わっても、いつまでもこのような風景を見ることができると、森町を、子どもから大人まで一緒に守っていき

小和田哲男氏の講演会が開かれました。はじめに、役場の女性職員で結成した「青葉の笛」な劇の発表がありました。亀之丞が奏でていた笛にちなみ、この名前にしたそうです。

演奏会では、大河ドラマ「おんな城主 直虎」の時代考証(過去の事実を明らかにする)を担当され、ドラマ制作の裏話から戦国時代の解説に多くの方が耳を傾けていました。

父が殺害され、井伊家の跡取、直親(亀之丞)にも死が迫ると考え、同格であった松岡氏(市田郷城主)を頼り、松源寺で匿ってもらったとのことでした。亀之丞に関する資料という物は極めて少なく「解らないことが多く苦労をして」また「27年の生涯でした」が、12年間を市田で過ごしたことは彼の人生にとつて大きかったのではないかと話してくださいました。

講演を聴



ななつ星による演奏

# 公民館主事交代



## 前主事 岩田 義雄

1年間という短い間でしたが、本館公民館主事として、お世話になりました。支館・分館の役員さん、地域の皆様や専門部の皆さんに支えられて、公民館活動を行うことができました。この1年間で感じたことは、支館・分館での活動が活発に行われていて、充実していることです。私が支館・分館の行事に訪れた際にも、参加されている皆さんの笑顔や、楽しそうな様子が印象的でした。又、皆さんが温かく迎えてくださ

## 新主事 小平 普

町公民館主事となりました。小平 普と申します。この4月の人事異動により役場経営企画課から参りました。出身は山吹新田です。よろしくお願ひします。

り、私自身も楽しむことができました。これからも、公民館の活動を通じて、地域の皆さんが交流を深めていただけたらと、うれしいです。今後、様々な面でお世話になります。私自身も子どもの頃から参加してきた、大変思い出のある町民運動会に携わること感謝するとともに、身の引き締まる思いです。今年度は、町制施行60周年記念の節目の年です。イベントもたくさんあるなか町民運動会が今回で最後の開催となります。私自身も子どもの頃から参加してきた、大変思い出のある町民運動会に携わること感謝するとともに、身の引き締まる思いです。今年度は、町制施行60周年記念の節目の年です。イベントもたくさんあるなか町民運動会が今回で最後の開催となります。私自身も子どもの頃から参加してきた、大変思い出のある町民運動会に携わること感謝するとともに、身の引き締まる思いです。

まだ公民館については右も左もわからない状況です。支・分館長さんをはじめ各部員の皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、微力ながら皆様と一緒に頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

# きりっ人 高森

## こだわりのソバで、人をつなげる

### 手塚 勇さん(下市田)

下市田にできた、肉そば「こまつ家」さん。  
店主の手塚さんは、長姫高校で東京農業大学短期大を卒業後、地元に戻り実家の花農家と市田柿を継いだとのこと。しかし、花の気味は下降気味であったため、市田柿をメインに、柿のオフシーズンに何か出さないかと考え、以前から遊休農地でソバを育て、ソバ茶を作っていた経験と、東京で行列のできるソバ屋を営んでいる幼なじみがい

たことから、生まれ育った高森町でソバ屋を始めた。一週間の東京修行で完璧にレシピを習得し、なおかつソバにのせる肉を自家製の市田柿と一緒に煮ること

で、肉のやわらかさ甘さとコクが増すというオリジナルアイデアを活かし、お客様に提供している。建物には、勉強のために訪れた香川のうどん屋で見た大衆食堂風の造りにして、取材に訪れた時は、夏に向けてテラスも製作中であつた。

ちなみに、お店のロゴが男性のシルエットに14という数字が記されている。この由来を聞いたところ「自分が好きなサッカー選手のヨハン・クライフの背番号が14番だったこと、そして僕自身がこまつ家の14代目にあたるから」とのこと。



14代目のこだわりそば

# まちの としよかん

真田、井伊と、昨年以降NHKの戦国大河ドラマに熱い視線が注がれています。直虎のいなずけ直親にゆかりの当町でも「BS、本放送、再放送と3回、更に録画して1回」と何度もドラマを見直すという方まであります。歴史本もフィクションもドラマと共に充実してきました。図書館でご利用いただける関連資料をご紹介します。図書館でじっくりご覧ください。



女城主 井伊直虎①②③④⑤⑥  
(姫街道連絡協議会ほか)  
中央タイムス左右の表紙は、浜松の方々が企画制作で、その中で寄贈いただいた資料です。



文明・自然・アジール  
女領主井伊直虎と遠江の歴史  
夏目琢史著(同成社)  
謎多き井伊一族とその地

# 読んで楽しむ 直虎

## 図書館所蔵の女城主関連資料

☆小和田哲男氏の監修著作 井伊直虎 戦国井伊一族と東国同乱史 (洋泉社) 大河ドラマの時代考証をつとめる戦国史の専門家で文学博士の小和田氏。ミステリーの謎解きのように、時代の登場人物のやりとりを、史料をもとに解説します。

☆梓澤要氏の著作 女にこそあれ次郎法師 (新人物往来社) 高森での講演は2回。梓澤さんの代表作です。直虎、直親に関心を持ったら一度は読んでおきたい、直親の存在がしつかり描きこまれた一冊。

☆井伊直虎 (NHK出版) 直虎ブームに対応し、井伊氏の発祥から彦根藩までを歴史小説家の梓澤氏が解説。舞台地・史跡ガイドには松源寺も紹介されています。

このほかに、ドラマのノベライズ版など多数あります。

## 臨時休館のお知らせ

6月19日(月)～30日(金) 管理システム入れ替えのため休館します。南信州図書館ネットワークに参加する図書館の全てが休館になりますので、お間違えのないよう御利用ください。6月6日以降に借りていた資料は開館する7月1日以降にご返却ください。ご理解ご協力をお願いいたします。